



日立社友クラブ 茨城支部

茨城支部 便り
第 86 号
2024年1月20日
編集兼発行人
谷口 正俊

HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI



川尻海岸の初日の出

撮影者：大津 博昌
撮影日：令和5年1月1日
撮影場所：日立市川尻海岸
撮影余話：

茨城県北部の海岸線は松が多く、起伏にとんでおり、初日の出の撮影に適した場所が多い。松は「吉祥の象徴」とされ、このおめでたい松と初日の出を一緒に見られることは「不老長寿」にも通ずると言われます。

撮影場所は十王川と川尻海岸が交わる場所が好ポイントである。

新年を迎えて



支部長 田中 幸二

明けましておめでとうございます。明るい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年はコロナの扱いも5類になり、ようやくコロナのトンネルから抜けつつありますが、まだ不自由さも残るなかで同好会をはじめ、各種の活動を積極的に推進していただきましたことに深く感謝申し上げます。今年も引き続き活発な活動をお願いいたします。

ウクライナ侵攻も長期化し、さらにガザ地区の紛争も加わり、悲惨な事態が広がっていますし、今年の夏の暑さを含め、地球温暖化も深刻さを増しています。また、日本の国際競争力はスイスのビジネススクールである IMD が毎年発表しているランキングでは64カ国中35位に落ち込み低迷しています。

このように社会課題がますます深刻化・長期化し、一方ではデジタル化など大きな社会変革が起きている中で、次世代を担う若者達が自ら活路をみいだしていけるようにしていかなければなりません。教育面で日本の教育も変わりつつありますが、従来の教育は主に知識偏重の正解のある教育でしたが、上述のような状況では正解がない課題にチャレンジできる教育が必要となります。このような教育は教育界だけにお任せするのではなく、学業より幅広い社会経験がある我々も含めて社会全体で支援していく必要があります。混迷する世の中で次世代の若者がしっかり役割を果たし、また個人と社会のウェルビーイングを実現できるようなバトンを渡せるように支援していきたいと思っております。

今年は、紛争や社会課題の解決に向けて明るさがみえる年となることを強く願っています。最後に会員の皆さま並びにご家族のご健勝とご発展をお祈り申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

茨城支部からのお知らせ

- ① 第73期第1回日立社友クラブ理事会報告
 - ・会員候補者から70名が入会を承認され、本部会員総数は7,136名となった。
- ② 2023年12月茨城支部役員会報告
 - ・支部入会申込者1名の入会が承認された。
 - ・支部会員数は904名(2023年12月時点、前年比-46名)となった。

茨城支部総会のご案内

2024年度第122回茨城支部総会の開催を以下に予定しています。

- ・期日：2024年5月24日(金) 11:00～13:30
総会 11:00～12:00 懇親会 12:00～13:30
- ・会場：ホテル天地閣

「理科室のおじさん」急募

日立理科クラブからのお知らせです。
週2日間ほど、日立市内の小学校へ出向いて、理科授業の先生のお手伝い(準備・整備・後片付け)をしていただける方を募集しています。「子ども好き・科学好き・モノづくり好き」な方、是非お願いします。

連絡先：日立理科クラブ 担当：畑山・河野

TEL・FAX: 0294-24-3104

E-Mail: hsc-rikakurabu@net1.jway.ne.jp

「ペンを持ってスケッチの旅へ」自費出版

スケッチは人生を豊かにしてくれる

岡村 参次



海外スケッチ
あれこれ

ここ3年間コロナ禍で生活様式が一変し在宅時間が

多くなったので、溜まっていた海外での皆さんのスケッチを整理していったら、その一枚一枚に当時の情景や雰囲気鮮明に蘇ってきた。この大切な記憶を絵と文と合わせて画集として残しておこうと思いついて編集を始め、2023年3月「ペンをもってスケッチの旅へ」と題して自費出版しました。

感動をペンの線で

海外でのスケッチは天候や時間、体調などに左右されがちで、色の濃淡で表現する本来の水彩画よりペンの線を活かした方が早く描けるのでペンを使います。「ああ、いいな」と感動した風景に出逢ったらすぐ座り込んでよく観察し構図を決め輪郭のあたりを取り、何種類かのペンのうちモチーフに合いそうなペンを選びます。



使用したペンの種類

ペンの線は消せません。ためらっていたら先に進めません。「写実的に上手く描こうとせず」「失敗を恐れず」感動した気持ちでペンを走らせます。線が正確でなく多少間違っても重ね線や修正すれば良く、たくさん描いている時には思わず描写が出たりして次のエネルギーが湧いて来ます。

建物はペンの線を活かせる

ヨーロッパのどの町や村に行ってもシンボルの教会や塔、家並み、しやれたカフェ、路地裏などほとんどが石造りの世界でどこを切り取っても絵になります。立派な尖塔を見せる華麗なゴシック様式や巨石を積み上げたロマネスク様式の重厚さなど全てがまさに線を活かせるペン描きの最適なモチーフです。



サンジェルマン・デ・フレ教会

建物には往々にして葦ペンを使います。インクをつけながらの線描は溜まりや滲み、微妙な細い曲線などで勢いが出て石造りの表現がうまく出せます。時間が細かい描写の時などは、ペン先が55度曲がっている特殊な万年筆がよく、使い慣れるとペン先の角度で変化のある線が面白く引け愛用しています。

彩色は遊び心で

色は現物と同じ色にしよとすると重ね塗りで色が濁って失敗することがあるので似通った色で調和を考えます。スケッチは現場主義を基本としていますが、時間や天候で彩色を残して仕上げる時があります。ホテルに戻って色のイメージがあるうちに思い出しながら遊び心での彩色も楽しいものです。

人物スケッチもまた楽しい

海外の旅では姿かたちや顔の特徴など自分の国の人とは違っているの描きたくなり、いつも片手にSM

サイズのスケッチノートを持ち歩きます。公園のベンチ、カフェ、空港ロビー、車中などチャンスはいくらでもあります。車中など動かない人物でいい自然体をイメージして探していると思わぬ場面に出会うことがあります。

パリなどでは道にはみ出たカフェテラスが至る所にあり、様々な人が寛いでいるところを描いていると気がついたお客がにっこり笑って手をふってくれたりします。近くの人を



フランスのカフェで人物スケッチ

描く時は一言ご挨拶が肝心です。概して外国の人は大まかで愛想が良くなかにはポーズを作ってくれる人がいてスケッチがますます楽しくなります。

人物スケッチは早描きが基本でペン先が柔軟なフェルトペンを使います。似ている似ていないなど気にせず特徴を捉えて思い切っていくと思わぬ結果が出て相手に喜ばれた時ほど嬉しいことはありません。これも長年人物スケッチのデッサンを続けて来たお陰と思っています。

スケッチで小さな国際交流

雨の中パリのモンパルナスの街角で白髪の品のいいマダムが手振りです。スケッチを止めてついて来なさい」と案内された所がかつての藤田嗣治のアトリエだった。絵の好きな日本人と知って親切に教えてくれたので何度も「メルシー」と言いつて握手し

た。

北イタリアのベルガモの宮殿広場でスケッチをしていたら幼稚園帰りのちびっ子達に囲まれ、あどけない顔に魅せられて似顔絵を描いた。付き添いの親たちはニコニコ笑いながら待っている。一人のお父さんが「俺も絵を描くのだが似ているね」と褒めてくれ、お互い下手な英語の会話が弾んで旧知の仲になった。ペニスのリアルト橋をスケッチしていたらそばのレストランのシェフが何度も見に来て何か言うのでこの絵が欲しいのかと聞くと飛び上がって大喜び。終わってスケッチブックから切り取って渡した時は爽快な気分だった。

ペンをもってスケッチの旅へ

数回にわたるヨーロッパのスケッチの旅の中からフランスと北イタリア各地でのスケッチを2年がかりで出版しました。スケッチのお陰で思わぬことを経験し、新しい発見があり、人との輪が広がり、人生を豊かにしてくれました。そして皆さんの絵の仲間から貴重な読書感をいただき学ぶこと多くまた励みになりました。卒寿など気にせずこれからもたくさん描くことが学ぶこととスケッチ人生を楽しんでいこうと思おうこの頃です。



自費出版した本

岡村参次氏 連絡先

〒317-0077 日立市城南町 5-10-9
電話：0294-23-2508
メール：sanji.okamura@gmail.com

リレー随筆 (86)

60代の大学生生活

岡本 寛



私は、定年退職後、奈良大学通信教育部文化財歴史学科の3年次に平成22年(2010年)に編入学し、平成26年に卒業した。60歳代の大学生生活を紹介する。

1. 大学生生活開始

卒業に必要な単位は、3年次編入で、64単位中、スクーリングで30単位、単位取得試験が34単位(内、卒業論文が4単位なので実質30単位)を取得することになる。通常1科目2単位なので、それぞれ15科目ずつ単位を取得することになる。

2. 単位取得方法

2種類ある。1つは課題レポートを提出し、合格後、単位取得試験を受験する。それに合格すると単位を取得できる。2つ目は、面接授業といわれるスクーリングに出席、最終日に試験があり、それに合格すると単位を取得できる。

3. 単位取得試験

科目ごとに10問の単位取得試験問題が開示されている。例えば「平安文学論」の9問目は、「物語の女主人公は嫡妻ではなく妾である場合が多いが、何故、具体的に例証をあげながら説明せよ」という問題。

受験する場合、持ち込み不可なので、解答を考えて暗記する必要がある。上記の問題で作成した解答(一部)は、「物語や女流日記を一見すると、平安時代の結婚形態が、妻問婚(つまどいこん)すなわち男が女の家に通う形態が通常であるかのように見えるのは、恋の物語の相手である女性が嫡妻ではないからである。同居しない妾や愛人の所には、男が出かけていくほかな

い。女はひたすら待つだけである。そのような関係が物語の興味の対象となっている」である。

4. スクーリング

面接授業への出席。学生の冬休み、夏休み、春休み期間中、金～日の3日間、面接授業を実施する。最終日にテストがある。上野誠国文学科教授による神話伝承論、史学演習にて、転害門、北山十八間戸、奈良坂などの探索研究を行った。文化財修復学において東大寺の大仏の螺髪(1/2)を略式乾漆技法にて作成した。奈良文化論のなかで奈良公園文学散歩という講義があった。興福寺、猿沢池、奈良国立博物館、森鷗外の門、東大寺、東大寺ミュージアム、西塔院跡、戒壇院、講堂跡、正倉院、二月堂(お水取りの準備)、三月堂を巡りながらの文学研究をおこなった。



作成した螺髪



森鷗外の門



お水取りの準備

5. 卒業論文

文化財、文化遺産としての「日立風流物」の意義、価値、位置についての研究内容を報告した。卒業論文の題目は、ユネスコ無形文化遺産「日立風流物についての一考察」である。その参考文献は、『日立風流物 歴史と記録』『茨城県資料 近世政治編』『近世資料 加藤寛斎随筆』『水戸歳時記(立原翠軒著)』、等である。

奈良大学に入学したことで奈良に15回も旅行感覚で行くことができ、楽しい学生生活を送ることができました。

同好会行事に参加して

「デジカメクラブ」

古林 克己



2019年に65歳で退職し、2021年にデジカメクラブに参加させて頂きました。現役時代から、写真に興味があり、何事も道具から揃える主義の私は、高価な(?)カメラとレンズを買い揃え、風景を主体に撮影していました。我が家の辛口評論家からは、「構図がありきたりだ、色がイマイチ、ピントが甘い」等々の厳しいコメントを貰いながらも、「カメラが悪いのかも」などと言いつつながら、大量生産に励んでいました。

そんな時、デジカメ同好会の例会・撮影会の案内を見て、知人を通じて入会希望を伝え、快く入会を認めて頂きました。例会での発表、展示会への出展も当初は躊躇していましたが、代表の溝口さんに後押しされ、人並みに発表するようになりました。例会での皆さんの発表作品は参考にしたい撮り方も多く、また溝口さんの講習では、風景撮影の心得・チェックポイントなるものを教えて頂き、「よし、これで俺の写真も良くなるぞ」と意気込んでみたものの、いざカメラを構えると、そんな教えはどこかへ吹っ飛んでしまい、帰宅後パソコンで確認すると、相変わらずの駄作の量産となってしまっています。写真とは、なんと奥深いものかと、半ば感慨、半ば諦めの境地に至っていますが、他人の評価はさておいて、自分自身で良いと思える写真が撮れるように、撮り続けていきたいと思っています。

「囲碁の会」

鈴木 洋明



退職を機に囲碁を再開した。下がっていた棋力を鍛えなおすのに利用したのはコンピュータ囲碁プログラムである。人工知能(AI)を活用した囲碁プログラムAlphaGoが韓国のトッププロに圧勝してから早くも7年が過ぎ、今ではプロ棋士より3子(段位で3段)強い囲碁プログラムが登場している。囲碁プログラムを利用して対局すれば、対局後に良かった手と悪かった手を示してくれる。悪かった手に代わってどこに打つべきであったかを勝率と共に示す機能もある。まさにAI先生である。コンピュータ囲碁プログラムの登場以来、序盤の布石、部分的な定石にも大きな変化が生じている。プロの打碁において、従来打たれることの無かった手法が今では主流となっていたり、かつての人気布石が最近ではまったく打たれなくなったりしている。まったく別のゲームかと思うほどの変わりようであり、囲碁を再開した身としては、新しい発見が多々あって新鮮である。

現在は、大みか拠点の囲碁の会に月2回ほど参加している。棋力は点数制で管理されており、勝つと1点上がり、負けると1点下がる。今のところ、棋力は徐々に向上しているようである。AI先生の助けも借りながら、棋力の向上に努めていきたいと思う。囲碁を休止している方も、この機会に再開し、囲碁AIの登場以降、劇的な変貌を遂げている最新の囲碁に触れてみてはいかがでしょうか。

同好会の行事ご案内（2月～4月）

1. 第88回研修会

【東京王子 渋沢資料館と国立印刷局の見学】

渋沢栄一が晩年過ごした飛鳥山公園内にある「渋沢資料館」、同氏が設立した製紙会社(後の王子製紙)に関する「紙の博物館」、一万円札などを印刷している国立印刷局東京工場を見学します。

- ・開催日：令和6年3月14日(木)
- ・集合：大みか駅前(旧常陽銀行前) 7:00
日立南ドライブイン 7:15
- ・帰着：大みか駅前 18:00頃の予定
- ・会費：10,000円の予定(バス、昼食代、他)
- ・募集人数：25名(20名以上の参加で実施)
- ・申込締切：1月31日(水)
- ・申込先：石田 和夫
Tel/Fax :0294-34-0209 携帯 080-5087-2555
E-mail :ishida.kazuo@nifty.com

2. 第96回歩こう会【東海、阿漕ヶ浦の桜めぐり】

東海駅東口を出発して東海南中学校、東海高校の脇の桜を散策し、その後田んぼ道を歩き、約200本の桜が咲く阿漕ヶ浦を散策します。

- ・開催日：4月5日(金) 雨天4月12日(金)
- ・集合：東海駅東口 午前10時
- ・コース：東海駅発→東海村総合福祉センター(絆)→阿漕ヶ浦公園(昼食)→東海駅着(距離6.9km)
- ・持参品：弁当、飲物、雨具、マスクなど
- ・申込締切：3月29日(金) ・会費：会員200円
- ・申込先：小野瀬 秀夫
Tel/Fax :029-282-4124
E-mail :h1941.0830.onose@tenor.ocn.ne.jp

第100回記念歩こう会の予告

令和7年4月4日 「水戸八景めぐり」
徳川斉昭が選定した水戸八景をバスも利用してすべて巡ります。ご期待ください。

3. 定例行事予定一覧（開催日・場所・時間などは各グループより、別途茨ネット等により連絡いたします）

グループ名	連絡先	実施予定日(曜日)			場所	時間	備考
		2月	3月	4月			
野鳥・自然観察グループ	石川 皓 0294-53-7064 aishika.jp@ybb.ne.jp	12(月)			涸沼	9:00～12:00	参加費：¥300/回 原則雨天中止
			11(月)		高戸海岸	9:00～12:00	
				22(月)	奥久慈憩の森	9:00～12:00	
囲碁の会	真鳥岩男 0294-74-5285 sp8k8z59@lake.ocn.ne.jp	12(月) 23(金) 26(月)	11(月) 大会 22(金) 25(月)	8(月) 24(水) 26(金)	大みか拠点	9:30～16:00	参加費：¥100/回 大会：¥1000 (昼食費含む)
	七海 清 029-273-8450 fwny8718@nifty.com	15(木)	21(木)	18(木) 大会	大島コミュニティセンター	9:00～	参加費：¥200/回 大会：¥700
料理教室	並木慎一郎 029-283-1476 s-namiki@themis.ocn.ne.jp	26(月)	25(月)	29(月)	らぼーるひたち	9:45～	参加費：¥1700/回
卓球クラブ	村上勝雄 0294-24-2430 mkattyan@net1.jway.ne.jp	7, 14, 21(水)	6, 13 20(水)	3, 10, 17(水)	会瀬体育館	9:00～12:00	参加費, 会場費等 まとめ：¥4500/年
デジカメクラブ	溝口忠憲 029-219-6576 mizogut@beach.ocn.ne.jp	5(月)	4(月)	2(火)	大みか拠点	10:00～15:00	参加費：¥1000/回 昼食費含む
写真五七五	細江 徹 0294-42-9126 tohru92@road.ocn.ne.jp	2(金)	1(金)	5(金)	大みか拠点	9:30～13:00	参加費：¥300/回 昼食別途
勝田パソコン	佐々木六漏 029-275-2567 sasak6318@nifty.com	27(火)	26(火)	23(火)	ひたちなか市ワークプラザ	13:15～16:00	参加費：¥500/回

注)・旅行会(連絡先;溝口忠憲)は開催が不定期なので、茨ネットを通じて開催をご案内しています。

訃報 誠に残念ですが、苦楽を共にした次の方がお亡くなりになりました。

笹間 純也	令和5年 1月 9日	満 92歳
和世 啓三	令和5年 7月 26日	満 87歳
北上 健三	令和5年 8月 15日	満 83歳
嶋崎 恒雄	令和5年 8月 22日	満 83歳
森 俊郎	令和5年 10月 12日	満 84歳
笠木 博幸	令和5年 10月 21日	満 87歳
返田 武雄	令和5年 11月 16日	満 85歳
高島 義衛	令和6年 1月 2日	満 86歳
黒田 勝三	令和6年 1月 2日	満 85歳

編集後記 岡村さんの「ペンを持ってスケッチの旅へ」、皆様もぜひ一読を！絵の構図、種々のペンによる線の出し方、濃淡の色付け、岡村画伯独特の魅力ある絵がいっぱい。絵に合わせた文も話題が豊富で大いに楽しめます。

岡本さんの「60代の大学生活」、日本の文化財の宝庫奈良、京都、中でもやはり原点は奈良ですよね。日本の歴史を作ってきた数多くのお寺や仏像巡りが有意義でした。今回はさらに奈良の歴史研究に踏み込んだこと、楽しい思い出ですね。

谷口 正俊